

HAFU ADAL
DRINK ROOTBEER EVERYDAY



DO YOU WANT THE STORAGE

REVEALED, OR

CONCEALED?

プランニングのツボを人気建築家が伝授

センスよく見せる収納、 すっきり隠す収納

自分の好きなモノばかりに囲まれた空間の心地よさ。

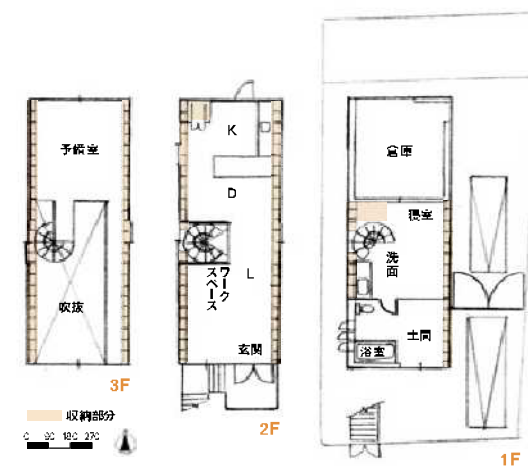
雑多なモノが隠されてスッキリ片付いた室内の美しさ。

建築家による「見せる収納」と「隠す収納」は、住まいを快適にしてくれる。

そのプランニングのツボを2組の人気建築家の実例を通してチェックしてみよう。

村角創一(P59、P60～63)、黒井伴直(P58、P64～71)、傍島利浩(P72～75)＝撮影 渡辺圭彦＝文

LDKは、2×10材の柱と梁を突き出した大空間。東洋には、清造材の間のスペースを収納として活用されている。南側には開口部を上下に大きく取り、「抜け」を意識することで室内全体に開放感を生み出した。P061 / LDKの天井高は約4.6m。視界いっぱいに広がる室内を、Mさん夫妻の愛するアメリカンデザインのグッズが彩る。夫妻の要望により、螺旋階段や3階のブリッジなどのスチールの空感が加わり、レトロモダンな雰囲気を盛り上げる。それらを足場にして、架の高い位置の棚にも絵や自転車などが、おさまられた。



見せる収納 #1
architect: KIYOSHI KASAI

大好きな雑貨を ギャラリーのように飾る

神奈川県・川崎市 M邸 家族構成 夫婦

住の木ノ节の上に板を載せただけの棚。DIYの得意な夫は場所でおもふる。家全体が好みのデザインの雑貨を飾るギャラリーとなる。



どんな家?

Profile of this house

家主のMさん夫妻は、本誌で若西深さんの設計による住宅「木柵の家」シリーズの記事を見て、設計を依頼することに。夫妻には、ミッドセンチュリーのアメリカンデザインが好きで、自分の手で好みの雑貨や家具をコーディネートして、居心地のいい空間に仕上げたいという思いがあった。

若西さんは2×10材の木枠による独自の工法で建物を

構成。1階に倉庫と浴室、サニタリー、2階にワルムスのLDK、その上にフリースペースという3階の住まいを提案した。2階のLDKは間仕切りが一切なく、天井高約4.6mのダイナミックな空間。そこへ螺旋階段、3階のブリッジなどを大胆に組み合わせた。

夫妻はタイルを貼り、ワゴンやベッドをつくり、平面を飾り棚に。思うように手を入れてわが家を楽しんでいる。